

田植え後25日～30日で、中干し開始

- 本年は田植え以降の気温変化が大きく、田植え時期によるほ場間差が大きくなっています。
- 米の品質向上には、中干しにより過剰な生育を抑えることがとても重要です。
- 生育が過剰にならないように、早めに中干しを始めましょう。

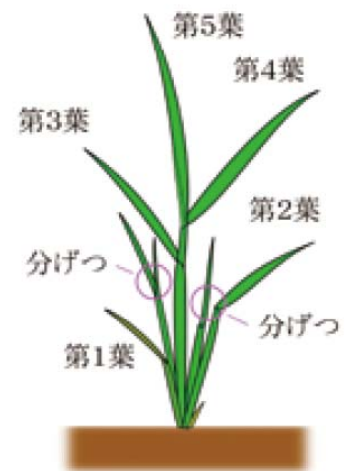
1 中干し・溝切りの効果

- 籾数過剰を抑制し米の品質低下を回避 → 良質米を生産
- 下位節間の伸長を抑制 → 倒伏を軽減
- 土壌へ酸素を供給 → 根を健全化
- 地耐力を確保 → コンバインの作業性を確保
- 溝切り → 迅速なかん水・排水

2 中干しの開始時期

【中干し開始のめやす】

50株植えの場合：1株の茎数が18本
 60株植えの場合：1株の茎数が15本
 (5月13日植えの場合：6月7日)



【茎数の数え方】

分けっ(葉が2枚以上出ているもの)も茎として数えます。
 図は茎数3本です。

- 田植え後25日～30日をめやすに、目標穂数の80%程度(280本/㎡)を確保したら、中干しを始めましょう。
- 過剰生育になりやすいほ場は、中干しの開始時期を早め、目標茎数の70%程度(250本/㎡)を確保したら開始しましょう。
- やや早めでも梅雨が本格化する前に溝切りを実施し、地表面の水が排水できるようにしましょう。

3 中干しの程度

- 田面に小ヒビが入り軽く足跡が付く程度。田面に大きなヒビが入る前に、走り水かん水を行う。
- 中干し期間は2週間程度が基本です!!
- 粘土質や湿田など肥沃なほ場 → 強め・長めに!!
- 砂地など地力の低いほ場 → 弱め・短めに!!



【中干しの強さは、小ヒビが入る程度】

不明な点はJA営農センターまたは普及センターまでおたずねください。

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター